

日本骨髄バンクの現状（平成 17 年 12 月末現在）

	11 月	12 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	5,225	4,105	232,565	295,564
患者登録者数	181	156	3,123	19,697
骨髄移植例数	64	70	-	7,017

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

20 歳未満のドナー登録者数
12 月 240 人
合計 1,942 人（17 年 3 月～）
51 歳以上のドナー登録者数
12 月新規 170 人
延長 188 人
合計 1,677 人（17 年 9 月～）

1 昨年の年間ドナー登録者数、移植例数とも「過去最多」に

平成 17 年（1～12 月）の年間データは、ドナー登録者数が 39,233 人（これまでの過去最多は 16 年の 28,388 人）、移植例数が 915 例（同 798 例）と、最多記録を更新しました。

ドナー登録者は、4 万人突破はならなかったものの初の「3 万人台」で、“低迷期”の平成 7 年～9 年の 3 年間合計（39,903 人）にも匹敵する数字です。13 年からはずっと 2 万人台が続いていましたが、昨年 7 月以降の急激な伸びが最多記録に結びつきました。

12 月の単月を 11 月と比較すると、前月比では通常 1～2 ポイントの伸びですが、高知県（8.8 ポイント）、山梨県（5.4 ポイント）、京都府（4.5 ポイント）の急増ぶりが目立っています。今月も引き続きテレビ、ラジオ、新聞などを通じて公共広告が行われており、また成人式会場でパンフレットを配布した結果、資料請求や問い合わせが急増しています。

さらに年間の移植例数も、過去最多の 16 年を 117 例も上回り、800 例台を飛び越えて初の 900 例台となりました。公共広告機構をはじめ、日本赤十字社と地方自治体のご尽力、調整医師や採取施設、および地区普及広報委員や説明員、さらには全国のボランティアの皆様のご協力の賜物であり、深く御礼申し上げます。

2 新年度当初予算で骨髄バンク関連は微減

平成 18 年度の厚生労働省予算の移植対策関係予算が 12 月 21 日に内示されました。骨髄移植対策費は 11 億 6300 万円で、17 年度（11 億 9900 万円）に比べて 3600 万円の微減となっています。このうち骨髄移植推進財団の骨髄移植対策事業費は 4 億 8453 万円（17 年度 4 億 5424 万円）で、コーディネートシステム再構築費 4808 万円が新たに盛り込まれました。検査対象人数は 17 年度の 3 万 1500 人に対して 3 万 3000 人と増加していますが、HLA 検査費の単価が下がり、骨髄データバンク登録費（日本赤十字社）が 6 億 7803 万円（17 年度 7 億 4203 万円）となったため、全体額が微減しました。

3 日本造血細胞移植学会が東京で 2 月開催。コーディネーター研修も

第 28 回日本造血細胞移植学会総会（坂巻壽会長：東京都立駒込病院）が 2 月 24 日（金）、25 日（土）に東京国際フォーラムで開催されます。ほかの医学会では参加者の大半を医師が占めているのに対し、この学会は看護師やボランティアの方々による幅広い参加が特徴となっています。また、期間中、全国のコーディネーターを対象として、コーディネーター・ブラッシュアップ研修会を開催します。

4 国際協力の現状・バンクを通しての2回提供者・DLI状況(12月末)

1) 国際協力の現状

			2005.10~12			~2005.12末	
海外ドナーから国内患者へ			登録患者数	全抗原適合*	コーディネイト数	移植数	累計移植数
NMDP(米国)	日本		14	14	6	0	105
BTCSCC(台湾)			13	6	5	1	22
KMDP(韓国)			13	10	6	0	11
計			—				138
国内ドナーから海外患者へ			登録患者数	全抗原適合*	コーディネイト数	提供数	累計提供数
日本	NMDP(米国)		22	10	16	2	7
	BTCSCC(台湾)		0	0	0	0	0
	KMDP(韓国)		99	71	50	5	117
	その他の国**		—	—	—	1	19
計			—				143

* 1人でも適合したドナー候補者が見つかった患者の数。

** その他の国と地域は累計のみ掲載します。提供内訳は香港6件、英国2件、ブラジル2件、ドイツ2件、ベルギー2件、オランダ1件、オーストラリア1件、カナダ1件、シンガポール1件、フランス1件。

- 2) 骨髄バンクを介して2回提供された方(累計数) 276人
 3) DLI(ドナーリンパ球輸注)療法の実施件数(累計数) 168件

5 高知県で「8万人登録運動」始まる。球界、教育界にも広がり

12月末現在のドナー登録者現在数が23万人を突破したため、目標数値である30万人には「あと7万人」となりましたが、高知県内では「8万人登録運動」がスタートしました。骨髄移植が必要な患者さんがきっかけとなったもので、ドナー登録者を急激に増やしていくのが目標です。患者さんが高知大学野球部選手(元土佐高校エース)であることから球界のバックアップもあり、報道によれば阪神の藤川球児投手(高知商業出身)や広島の大野浩一投手(高松東高校出身)もドナー登録への呼びかけを積極的に進めています。

かつてのように「特定の患者さんのためだけのパーソナルドナー募集」ではなく、広く骨髄バンクへのドナーを募る活動であることから、高知県の教育界、マスコミをも巻き込みながら全国的な広がりを見せつつあります。

6 12月度の寄付額は約3900万円、ご協力ありがとうございました

12月度のご寄付は、皆様よりご協力をいただいた結果、約3900万円に上りました。中でも12月5日に戸塚カントリー倶楽部で開催された『ぐるなび・骨髄バンクチャリティーゴルフ大会』(NKBグループ 瀧久雄大会会長)では、(社)日本女子プロゴルフ協会や50社を超える企業の皆様にご協力をいただき、約640万円のご寄付を頂戴いたしました。また、中溝裕子プロが自らの骨髄移植経験をもとに骨髄バンクをPRしていただき、参加の皆様には大きな感動を与えていました。皆様からのご寄付につきましては、患者さんの負担軽減をはじめ、ドナー登録を呼びかけるためのパンフレットやポスターの作成費用などとして、大切に使用させていただきます。皆様のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

7 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開	2月15日(水)17:00~19:00 廣瀬ビル2階会議室